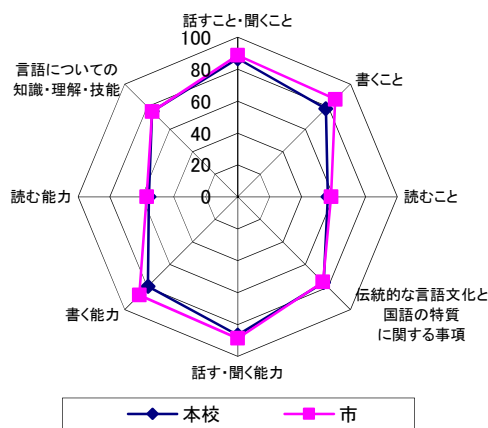


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	86.6	88.7	89.1
	書くこと	78.1	86.4	64.2
	読むこと	56.5	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	86.6	88.7	89.1
	書く能力	79.4	87.1	66.7
	読む能力	55.5	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	75.7	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

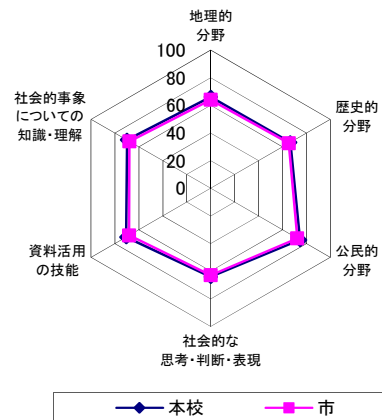
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を2.0ポイント下回っている。 ○話の内容を正確に聞き取ることができる・話し方の工夫・根拠を明確にすることの正答率はわずかながら市の正答率を下回るものの、ほぼ同程度である。 ●司会者の工夫を聞き取ることの正答率は72.5%で、市の平均より6.2ポイント低い。	・今後も話し合い活動の中で、自分の考えを述べる際には、その根拠を明確にすることを意識するよう指導を継続すると共に話し手の表現の工夫に気がつき、自分の言語活動に役立てられるよう指導する。 ・話し合い活動の中で、司会者の役割や工夫の在り方を指導していく。
書くこと	市の平均正答率を8.3ポイント下回っている。 ○自分の考えを、その理由と共に明確に文章にすることができている ●市の正答率に比べ、指定された文字数で書くことについては9.5ポイント、指定された段落構成で書くことについては11.5ポイント、それぞれ低い。	・意見文を書く際、自分の立場を明確にし、その根拠を具体的に書く指導を続けていく。 ・今後は、中核となる一文を意識して段落を作り、全体の構成を考えた文章作りを指導していくと共に、自分の考えを支える理由を含め、短く簡潔な文を積み重ねて、わかりやすい文章を作ることを指導していく。
読むこと	市の平均正答率を2.0ポイント下回っている。 ○市の正答率を下回ってはいるものの、説明的文章における、内容をとらえたうえで、それを別の事例にあてはめることができることについては、正答率が85.0%と項目の中では一番高い。 ●文学的文章においては、登場人物の心情や情景描写等の表現から作者の思いを読み取ることが、説明的文章においては、文脈に沿って要旨をとらえ、筆者の考えを読み取ることが、それぞれ十分にできていない。	・普段の授業の中での読解指導を継続すると共に、日常の読書の中でも、楽しむ読書から、考える読書をするよう、今後も継続指導をする。 ・文章の内容や展開を整理できるよう、読後のメモを取ることを指導する。 ・文学的文章においては、直接的な心情描写以外にも登場人物の心情を推し量れるような作品を発展学習で扱っていく。 ・説明的文章においては、段落構成がシンプルな教材を数多く読むことにより、文章展開に即して読み取れることを指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を0.5ポイント上回った。 ○中学校第3学年までに学習した漢字をおおむね読むことができたり、小学校で学習した漢字もおおむね書くことができている。 ●文法・語句に関する知識のうち、用言の活用と助動詞についての知識が十分に身につけていない。	・今後も、学校図書館において古典作品に親しめる環境を充実させると共に、たくさんの作品を時代ごとに紹介する。 ・漢字練習帳を十分に活用し、定期的に小テストを行うことにより定着を図る。 ・文法事項については、1年次よりの積み重ね学習が重要になるので、各学年で身に付けるべき文法事項を確実に習得できるよう指導する。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.1	64.0	50.9
	歴史的分野	66.6	65.3	57.1
	公民的分野	74.7	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.0	62.9	52.3
	資料活用・の技能	70.6	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	70.0	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

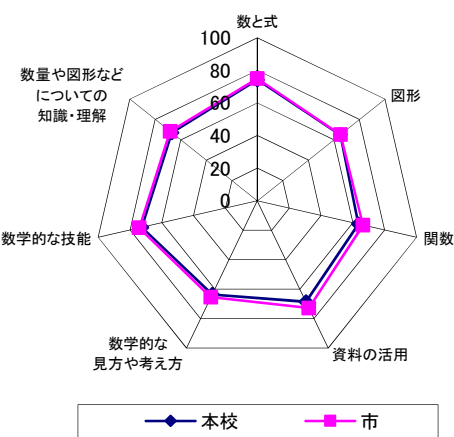
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率は、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○「世界と各地の人々の生活と環境」では、市のポイントを4.7ポイント上回っている。雨温図の読み取りや世界各地の宗教についてなど、資料活用・の技能や社会的な思考・判断・表現の観点でよい結果が見られる。 ●日本の位置や領域に関する知識が不足している。知識の定着に課題が見られる。また、記述に関して自分の意見を表現する能力にも課題が見られる。	・地理的分野では、昨年度からの引き続き取り組んできた、社会的な思考・判断・表現の育成により、観点別で市の平均を上回ることができた。また、昨年度課題となっていた「日本や世界の地形」においても自然や位置を問う問題で市の平均を上回ることができた。今後も、視聴覚資料等を用いて具体的なイメージをもとに、知識の獲得につなげていきたい。また、日本・世界の各地域の導入の際には、白地図を利用し、地名・場所・特色を合わせてとらえさせ、知識の定着を図りたい。
歴史的分野	平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ○内容別の正答率において、「中世の日本」がすべて市の平均を上回っている。特に、室町文化についての理解を問う問題では校内正答率は94.6%である。 ●「古代までの日本」では、市の平均と同数値である。壺田永年私財法や天平文化の特色の理解を問う問題では、市の平均より2～5%下回っているため、古代の知識の定着に課題が見られる。	・歴史的分野では、思考を問う記述問題において、昨年度からの課題でもあった「複数の資料をもとに特色を読み取る」問題の正答率に課題を残した。重要語句など知識の定着を図るのはもちろんのこと、その知識をもとに自分の考えを持ち深めることができるよう、引き続き、「複数資料から読み取れること」、「復習資料から総合して言えること」を考えさせ、根拠をもって自分の考えを説明することができるよう、資料から考える力を養っていききたい。
公民的分野	平均正答率は、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ○内容別正答率が、すべて市の平均を上回っている。特に、「現代の民主政治と社会」では、すべての設問で市の平均を上回っている。 ●憲法改正の手続きの順序についての理解を問う問題では、校内正答率が約4割である。身近に感じづらい国会や政治の仕組みに関する理解の定着に課題が見られる。	・公民的分野では、内容によって地理・歴史的分野の学習内容を活用し、学習を進めていくことが多い。そのため、各分野で学んだことをいかし、多面的・多角的に考えることができるよう、3分野を関連づけた授業を展開できるように取り組んでいきたい。また、実際の生活とも関わる公民分野的内容ではあるが、生徒には生活と関連づけて考えることは難しいため、新聞記事やニュースなど身近なものを活用しながら、知識の定着を図りたい。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.3	75.0	70.3
	図形	65.1	65.2	63.4
	関数	63.6	66.4	51.5
	資料の活用	68.5	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	63.6	65.5	55.1
	数学的な技能	72.6	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.1	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

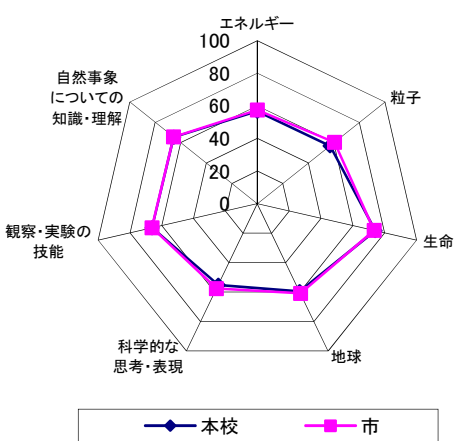
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均正答率を0.7ポイント下回っている。 ○乗法公式を使って式を展開することについては、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ○平方根の大小についての理解では、市の平均を4.1ポイント上回っている。 ●加減法を使って連立方程式を解くことについては市の平均から2.8ポイント、2次方程式を解くことについては4.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算力の向上は、今年度学校全体で取り組んできた。基本的な計算問題については力の向上が見られ、市の平均とほぼ同じである。特に乗法公式を用いる計算には高い理解力を示している。しかし、連立方程式の解法や因数分解など、知識の積み上げが必要となる部分に関しては定着が不十分であるため、その都度振り返るなど、繰り返し練習する機会を増やし、定着を図っていきたい。
図形	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○回転移動については、市の平均より4.0ポイント上回っている。 ○相似な図形の性質から辺の長さを求めることについては正答率は5割に満たないが、市の平均より、1.7ポイント上回っている。 ●線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって求める問題では3.4ポイント、仮定と結論についての理解では2.5ポイント、市の平均を下回っている。	・基本の作図のかき方について理解している生徒は多いが、作図の性質や、どの場面での作図を使うのかということについての理解が不十分である。その作図を行う理由や図形の性質を明確にしながら指導していききたい。 ・仮定と結論については、理解が不十分である。言葉の意味を確認するとともに、証明問題において何度も確認する機会を持ち、理解を深めていききたい。
関数	市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。 ○グラフの傾きと切片の意味を理解していることについては、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ● $y=ax^2$ における変化の割合を求める問題では5.2ポイント、グラフを根拠に説明することについては8.2ポイント、市の平均を下回っている。	・グラフの傾きや切片の意味などの基本的な問題については理解度は高まっている。しかし、グラフを根拠に説明したり、出てきた値を活用する問題に関しては理解が不十分である。今後は、根拠を明らかにして、論理的に分析する問題や必要な値を求め、それを活用していく問題に触れる機会を増やし、論理性や理解を深めていききたい。
資料の活用	市の平均正答率を4.3ポイント下回っている。 ●度数分布表から階級の相対度数を求める問題では、2.6ポイント、中央値については5.8ポイント、確率の問題では7.1ポイント市の平均を下回っている。	・代表値の理解が不十分である。具体例を示しながら説明するとともに、それぞれの性質をより深く理解できるよう適切な教材を考慮していききたい。 ・度数分布表については、その分析や活用法についての理解が不十分である。度数分布表にまとめることの良さや、その活用法を体験する活動を通して、理解を深めていききたい。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.7	57.5	51.6
	粒子	57.0	60.3	53.0
	生命	74.1	73.4	67.9
	地球	59.6	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	55.3	57.7	51.5
	観察・実験の技能	66.2	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	65.5	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

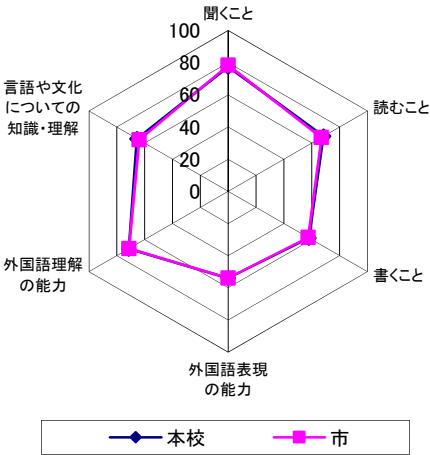
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均をやや下回る。 ○光が2つの異なる物質中を進むとき、境界面で曲がることについての設問の正答率が、市平均を上回った。実験だけでなく、光の進むイメージを図示することで理解が深まったと考えられる。 ●物体と同じ大きさの像がうつったとき、物体が焦点距離の2倍の位置にあることについての設問の正答率が全国、市平均を下回った。光が屈折することは理解できても、どのような道筋をたどるか理解が深められていなかったためと考えられる。	・エネルギー分野は、目的を明確にして実験を行うことで、結果や考察をまとめる作業に繋げていきたい。 ・物体のつくる像を作図させる機会を増やしたり、実験を通していろいろな像を実際につくらせることで、理解を深めさせていきたい。
粒子	平均正答率は、市の平均をやや下回る。 ○ろ過の様子を粒子モデルで表す設問の正答率が市平均を上回った。生徒にモデル図を書かせる活動をしていたことで、理解が深まったと考えられる。 ●水溶液とイオンの分野の設問の正答率が、すべて市平均を下回った。この分野の知識が身に付いていないためであると考えられる。	・粒子分野では、実験の注意事項を1つ1つ確認して、実験結果を通して考察し現象の理解を深めさせていきたい。 ・目に見えないイオンについて指導する際、モデル図を作図して、生徒が視覚化できるようにすることで、イメージをもって学べるようにしていきたい。
生命	平均正答率は、市の平均をやや上回る。 ○植物のからだのつくりとはたらきの分野の設問の正答率は、すべて80%以上であった。特に、光合成に関する設問では、正答率が88%に達した。 ●遺伝に関する設問で市平均を下回った。親の形質が子や孫にどのように受け継がれていくか理解が不十分であったと考えられる。	・生命分野では、実験とともに、観察を通して考察し、現象の理解を深めさせながら、知識を積み上げさせていきたい。 ・遺伝の規則性に関して、優性や劣性の意味をしっかりと確認した上で問題演習させることで、形質がどのように受け継がれていくのか学ばせていきたい。
地球	平均正答率は、市の平均をやや下回る。 ○温度と湿度の関係に関する設問の正答率が、市平均を上回った。湿度の計算に関して、教え合い活動を取り入れたことで、理解が深まったと考えられる。 ●結露が起こる仕組みに関する設問の正答率が、全国、市平均を下回った。この分野の知識が身に付いていないためであると考えられる。	・地球分野では、岩石や太陽の動きなどの観察のほか、映像資料なども活用することで、視覚的な援助も行っていきたい。 ・結露が起こる仕組みについて、日常生活と関わってくるので、なぜ起こるのかだけでなく、結露を防ぐ方法などにも着目することで、理解を深めさせていきたい。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	77.4	78.4	72.9
	読むこと	68.4	66.9	63.2
	書くこと	58.0	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	53.9	54.0	51.1
	外国語理解の能力	71.5	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	65.5	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均正答率を1.0ポイント下回っている。 ○好きなスポーツをたずねる質問は市の平均を1.9ポイント上回っている。 ○天候をたずねる質問では、市の平均を1.2ポイント上回り、100%の正答率である。 ●その他の質問については、下回っており、特に、経験のないことやスピーチの内容をたずねる質問については2ポイント以上下回っている。	・聞くことについての能力の向上は、今年度力を入れてきた。内容を聞き取り、適切に応答することについては市の平均をほぼ同等、もしくは上回っている。普段から英語の音に耳を慣らし、英語を聞き取る時間を多く取るようにしたい。また、今後は聞き取りの問題演習を数多く行うようにし、繰り返し練習する機会を増やし、定着を図っていきたい。
読むこと	市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。 ○語形・語法を理解しているかを確認する問題は市の平均を0.2～1.9ポイント上回っている。 ○情報や条件に合うものを選ぶ問題や内容把握をする問題では市の平均を2.8～5.7ポイント上回っている。 ●相手の要望に適切に応じる問題や、具体的に示しているものを答える問題では市の平均を4ポイント下回っている。	・読むことの領域では、得意分野と苦手分野があり理解に差がある。例えば、内容を把握したうえで感想を書く問題では市の平均を大きく上回っている。一方、市の平均を下回ったのは、主に対話文を読み、相手に対応する問題であった。今後は、まとまりのある英文に多くふれる時間を取り、読み取りの力を育成し、定着を図っていきたい。
書くこと	市の平均正答率を0.5ポイント上回っている。 ○単語を正しく書く問題では、市の平均とほぼ同等から6.8ポイント上回っているものもあった。 ○単語を並べ替えて文を作る問題では、市の平均を3.4～6ポイント上回っている。 ●自分の好きなことについてまとめた内容で説明する文を書く問題では0.5～3.9ポイント下回っている。	・書くことの領域においても、得意分野と苦手分野に分かれてしまっている。日ごろの積み重ねの表れである単語を書く問題や並べ替えの問題では正答率が高く、生徒が普段から努力をしてきた結果であると思われる。一方、自分自身についてまとめた内容の文章を書く問題に関しては正答率が低かった。今後はまとまりのある文章を書く活動を多く設定し、英文を書くことに慣れさせていききたい。